

ズワイガニの混獲を防止する 底びき漁具の開発

【背景・目的・成果】

底びき網でアカガレイやハタハタを獲る時に、漁期以外の時期に混獲されたズワイガニは、資源保護のため再放流されていますが、特に表面海水温の高い9～10月では、再放流後の生残率は10%以下と考えられています。ズワイガニは漁獲対象サイズになるまでの期間が長いため、混獲による死亡を減らすことは重要な課題です。

そこで、混獲されたズワイガニを生きたまま海中で排出する底びき漁具の開発を行いました。

この漁具は、漁獲物(特にカレイ類)の排出を少なくすること、構造がシンプルで小規模であることを重視して開発しました。

調査船たじまで漁獲試験を行った結果、アカガレイの9割、ハタハタの8割以上を漁獲しながら、混獲したズワイガニの6割を排出する漁具ができました。

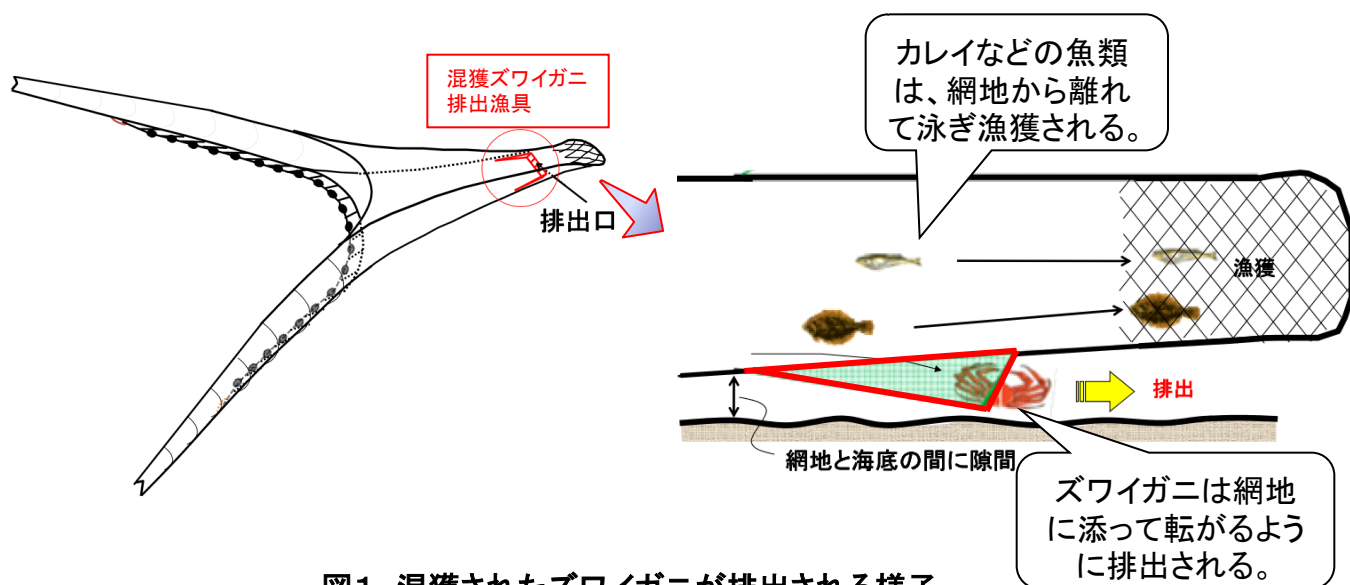


図1 混獲されたズワイガニが排出される様子

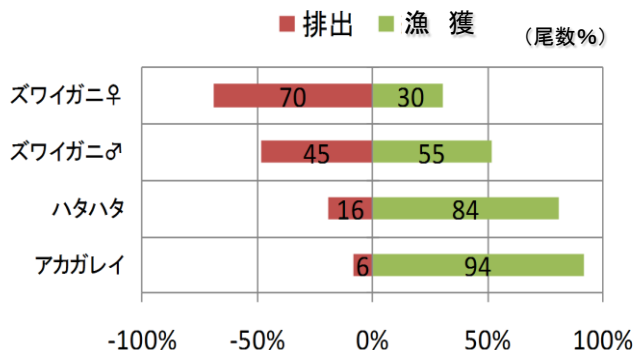


図2 ズワイガニの排出割合と魚類の漁獲割合



図3 排出口付近の水中映像

【技術の活用】 この漁具には次のようなメリットがあります。① 混獲されたズワイガニの生残率が向上する。② 構造がシンプルなため、取り扱いやすく、低コストで導入できる。③ アカガレイやハタハタが、混獲されたカニで傷つきにくくなる。④ 船上で漁獲物を選別する作業が軽減される。

今後は、実際に漁船でこの漁具を使ってもらい、種類の違う網への適合性、漁獲性能、操作性などを評価してもらいながら普及を進めます。